

# ラジオのオピニオン番組の 意見表明談話における並立表現 「タリ」「トカ」「シ」の用法

森岡 千枝子

## キーワード

並立表現・接続表現・集合（セット）・集合の意味内容・非限定表現

## 1. 研究目的

日本語の文章・談話において、二つ以上の語・句・節・文等の言語単位が対等の資格で並べて述べられることがあるが、それを「並立表現」<sup>(1)</sup>と呼ぶことにする。

並立表現の機能には2つの方向性があると考えられる。

- I. 複数の具体例を並べて提示する。
- II. 並立要素の共通の意味によってまとまりを示す。

日本語教育における並立表現は、初級段階で、まずIの具体例提示の機能を導入するが、日本語学習者が中・上級段階に進み、文章や談話で自分の意見を述べる際には、並立表現のIIのまとまりを示す機能を用いることにより、説得力を増すことができるのではないかとと思われる。初級教科書の述語の並立表現の提示例には、次のようなものがある。

(1) 休みの日はテニスをしたり、散歩に行ったりします。

(『みんなの日本語初級Ⅰ』p.154)

例(1)は具体例を列挙するものだが、中級教科書には、並立表現によって並立要素をまとめた次のような提示例がある。

(2) 道路を広くしたり、バイパスを造ったりして、渋滞が起らないようにしなければならないと思いますが、それはまた、古い町並みや自然を壊すことになります。

(『長沼新現代日本語Ⅲ—中級』p.142)

例(2)では「～タリ、～タリシテ」で述語<sup>(2)</sup>を並立させた意味のまとまりを「渋滞が起らないようにする」で表しているが、さらに、後続する「古い町並みや自然を壊す」に接続詞「また」を用いて並立させている。このように、並立表現は接続詞や接続助詞等が複数組み合わせられて用いられることがあり、中・上級段階で長文や自然談話を扱う際には、こうした機能を取り扱う必要がある。

本稿では、日本語母語話者による意見表明の談話として、ラジオの聴取者参加型のオピニオン番組における電話の談話と電子メールの文章を資料とし、並立表現「タリ」「トカ」

「シ」<sup>(3)</sup>の用例を収集し、述語の並立表現を中心に、実際の運用上の使い分けや並立表現のまとまりに関わる文脈展開を分析する。

並立表現は、①並立表現に用いる接続助詞が、複数例だけでなく、単独の例を挙げる場合がある、②複数例を挙げる際でも、接続助詞が複数でない場合がある。これを踏まえて、3種の並立表現「タリ」「トカ」「シ」の分析を行う。談話では、複数要素が1発話中に並立しない場合や、主節と従属節が倒置する場合もあるため、広く談話内で複数要素を分析する。また、並立表現の共通の意味内容が明示される場合の類型についても、分析した結果をもとに、日本語学習者に対する並立表現の提示方法について、初級段階での導入以後、中・上級の学習段階での提示の問題点を検討する。

## 2. 「並立表現」の先行研究

本稿では、寺村秀夫（1991:197）が「構文要素の結合と拡大」の章において、日本語の文の構文要素の結合の仕方について、全体を「並立的結合」と「主従的結合」に分類した際の「並立的結合」という考え方を主軸に据えて、並立表現を分析する。

森山卓郎（1995:127-149）は、「タリ」「トカ」「カ」「ナリ」の意味用法に言及し、「～トカ」の部分が、「～タリ」と同様に、構文的には名詞句の資格を有しているとしている。また、「並列述語構文」と称して「[ab] する」という形を考察し、「述語としての機能そのものは『する』の部分に統括されている。」としている。

さらに、安藤淑子（2001:42-50）は、中級以降の学習者に対する文章の産出の指導において、並立助詞「ヤ」の同類の集合をイメージさせる機能の指導の重要性を論じている。

## 3. 本稿における概念規定

### 3.1 並立表現と接続表現

寺村（1991:197）は、「並立的結合」について次のように定義している。

二つあるいはそれ以上の名詞、形容詞、動詞、（名詞＋）判定詞を、平等の資格で結びつけて、全体としてその文中の一つの構成要素とするのが並立的結合である。

この寺村説に従い、並立的結合の表現全体、および並立接続をする接続表現<sup>(4)</sup>を「並立表現」と呼ぶことにする。また、日本語の並立表現に用いられる接続助詞では、複数例を挙げるだけでなく、一つの代表例や典型例のみを挙げる場合もあるが、後者の一例を挙げる場合も、下記記載の「共通の意味的条件」を有するものと考え、並立表現に含める。

### 3.2 集合（セット）と集合の意味内容

並立的結合、つまり、名詞および述語の並立接続において、寺村（1991:226）は「並立接続成立の共通の意味的条件」に言及し、談話の中で「集合（セット）」のメンバーとして捉えられるものとしての等質性をもっていなければ、自然な並立結合は成立しないと述べているが、本稿もこれに従うものとする。並立する要素の共通の意味的条件の内容を本

稿では「集合の意味内容」と呼ぶことにする。

### 3.3 非限定表現

中村明(1983)は、日本人の表現的特徴として、あまりに明確な表現は相手の判断をあおぐという姿勢に欠けるため、受け手の自主的な判断の余地を残す表現を用いることがあると述べ、それを「非限定表現」と呼んでいる。レトリックの面から並立表現「タリ」や「ナド」の表現性に触れており、その考えを援用する。「非限定表現」は、並立表現の単独例の形式のみを用い、文脈や場面等によって曖昧表現や冗談・皮肉、対人的配慮を派生させると考え、並立表現分類の一項目と規定する。分類の位置付けについては次の項に示す。

## 4. 並立表現の分析方法

### 4.1 分析対象と方法

本稿では、並立表現「タリ」「トカ」「シ」を研究対象とする。その理由は、この3種の並立表現が、1) 日本語教育の初級段階で導入されること、2) 一例のみ挙げることがある、3) 「～たりして。」「～たりとか。」「～し。」等の発話末・文末表現もある、4) 並立する要素の順序と生起順とは関係がない(継起表現ではない)、という共通点があるためである。

一方、この3種の並立表現の異なる点は、接続する述語の活用形が、「タリ」は連用形、「トカ」「シ」は終止形となり、「トカ」は名詞にも接続するという点、また、用法面でも、「タリ」は動作・状態の列举、「シ」は取り立て助詞「モ」と同様に取り立ての意味を持ち、累加や理由を表すことであり、「トカ」は例示の意味に「ト」の引用と「カ」の選択の性格が残っている、などの点が挙げられる。

分析方法は、談話資料と文章資料の「タリ」「トカ」「シ」の用例を収集し、その文型を分類し、関連のある文法的成分や共起する語句があるか、「集合の意味内容」が明示されているか等进行分析し、考察する。分析する際に、並立する語・句・節・文等の文法的要素の数に従って、以下の分類を基本とした。

並立する文法的要素の数と文型

ex. は「タリ」の場合の文型例

#### A. 複数の文法的要素を並立する

a1 複数例を挙げ、当該の並立表現が必ず文法的要素の後ろに付くもの ex. ～タリ～タリ

a2 複数例を挙げ、当該の並立表現が文法的要素の間にのみ付くもの ex. ～タリ～

a3 単独例の多重構造(次項 b1, b2 の組み合わせ) ex. (～タリ)～タリ

#### B. 単数の文法的要素を提示する

b1 集合の代表例、典型例として単独例を挙げるもの ex. ～タリ

b2 非限定表現 ex. ～タリ

### 4.2 分析資料

#### 4.2.1 談話資料の収集方法

分析資料は、TBS ラジオの番組、「バトルトークラジオアクセス」の会員聴取者による意見を述べる談話を録音し、文字化して談話資料とする。この番組は、聴取者参加型のニュースとオピニオンの番組(月曜日～金曜日、午後10時～11時40分に放送)である。

が、毎回一つの設定されたテーマに対し、聴取者が電話で自由に意見を述べる形になっている。資料に選んだ理由は、自分の主張の根拠を説明して説得する際に、並立表現が、必要とされ、文脈展開上、現れやすいからである。1回の放送分における聴取者参加部分の発話総数は約 1037 発話で、全 4 回放送分を録音して、資料とした。番組の放送日、各テーマ等は 4.2.3 の項に記す。

談話資料の文字化の方法は、ザトラウスキー（1993：別冊資料 2-3）の方法に従い、従属節が複数ある場合は、1 節を 1 発話とし、相づちも 1 発話とした。具体的な文字化規則については、ザトラウスキー（1993）の「凡例」に従い、若干修正を加えた。

#### 4.2.2 文章資料の収集方法

文章資料については、同番組のホームページに公開された電子メール（以下、「メール」と記す）によって投稿された聴取者の意見文を収集し、分析した。メールの文章は、推敲して記載される他の文章とは異なり、話し言葉に近い性格を帯びている。投稿者の世代や情報ツールを頻繁に使用する者かどうかで、メールの文体は変わるが、話し言葉と書き言葉の中間的な性格の文章資料として扱う。同じテーマの談話資料との相違について、ある程度見ることができ、談話資料にはない表現が文章資料に観察される場合もあるのではないかと考え、談話資料を補う意味で扱うことにする。1 放送日の投稿数は、テーマによって増減があるが、2002 年 11 月 26 日放送分では 103 人による投稿があった。投稿メールの 2 回放送分を収集し、文章資料とした。

#### 4.1.3 分析資料のテーマ、時間詳細

分析資料のテーマ、時間、参加・投稿人数、発話・文数、節数、放送日は、以下に記す通りである。

##### 【談話資料 1】2002 年 11 月 26 日放送

テーマ「東京の 40 代男性の未婚率が 22% に。40 代でも 2 割以上が独身という状況は深刻だと思いますか？」

参加聴取者：女性 1 人（59 歳）、男性 3 人（40 歳、37 歳、51 歳） 計 4 人

番組側参加者：女性 1 人、男性 1 人 計 2 人

収録時間・発話数：29 分 18 秒、1,100 発話

##### 【談話資料 2】2003 年 1 月 24 日放送

テーマ「『日本は米英に次ぐ 3 番目の敵国』とイラク副大統領は明言。アメリカ追隨をやめて、日本は、独自の対イラク外交ができると思いますか？」

参加聴取者：女性 1 人、男性 3 人（年齢情報なし） 計 4 人

番組側参加者：女性 1 人、男性 1 人、ゲスト男性 1 人 計 3 人

収録時間・発話数：38 分 1 秒、1,831 発話

##### 【談話資料 3】2002 年 12 月 12 日放送

テーマ：「忘年会シーズンで考える。『二次会は取り合えずカラオケ店で』最近主流のこのパターンをあなたは本当に好きですか？」

参加聴取者：女性 1 人（36 歳）、男性 4 人（39 歳、38 歳、32 歳、55 歳） 計 5 人

番組側参加者：女性 1 人、男性 1 人 計 2 人

収録時間・発話数：29分40秒、1,365発話

【談話資料4】2002年12月16日放送

テーマ：「解剖学者の養老孟司さんとバトルトーク。あなたは、自分の子供が、『普通じゃない!』と言われることに不安を感じますか?」

参加聴取者：女性3人（40歳、39歳、56歳）、男性1人（41歳） 計4人

番組側参加者：女性1人、男性1人、ゲスト男性1人 計3人

収録時間・発話数：35分39秒、1,258発話

【文章資料1】

（テーマ、放送日は談話資料1と同じ）<http://www.tbs.co.jp/ac/bt/20021126c.html>

全投稿文数：614文（1,053節）、投稿者103人

【文章資料2】

（テーマ、放送日は談話資料2と同じ）<http://www.tbs.co.jp/ac/bt/2003/20030124c.html>

全投稿文数：441文（696節）、投稿者67人

## 5. 分析結果

### 5.1 並立表現3種全体の出現傾向

分析対象とした3種の並立表現についての調査結果を、【表1】に示す。

【表1】並立表現の出現傾向

資料名	並立表現 タリ出現数	タリ合計に 対する比率	トカ出現数	トカ合計に 対する比率	シ出現数	シ合計に 対する比率
談話資料1	10	11.5%	35	16.7%	18	20.2%
談話資料2	10	11.5%	33	15.7%	6	6.7%
談話資料3	25	28.7%	41	19.5%	6	6.7%
談話資料4	25	28.7%	74	35.2%	12	13.5%
小計	70	80.5%	183	87.1%	42	47.2%
文章資料1	16	18.4%	21	10.0%	37	41.6%
文章資料2	1	1.1%	6	2.9%	10	11.2%
小計	17	19.5%	27	12.9%	47	52.8%
6資料合計	87	100.0%	210	100.0%	89	100.0%

6資料全体における並立表現の出現傾向をみると、談話資料4種において、3種の並立表現中、「トカ」が最も多い。「トカ」は名詞と述語の両方を並立するが、比較のため、【談話資料1～4】の順に、出現数35例、33例、41例、74例から、名詞の並立の出現数である11例、12例、17例、24例（名詞、述語別集計より転載）を除くと、述語の並立は、24例、11例、24例、30例となる。述語の並立は、【談話資料3】において「タリ」25例、「トカ」24例と、1例のみ「タリ」が上回るほかは、「トカ」の出現数の方が多かった。

本稿の文章資料はメールであり、談話に近い性格を有するが、文章資料2種ともに、「シ」

の出現数の方が多くなっている。但し、【文章資料2】に関しては、「シ」が多いといっても、11例のみであり、並立表現が全般的に少ない。テーマの違いが並立表現の使用傾向に影響を与えている可能性が考えられる。戦争の可能性を含む対イラク外交というようなテーマの場合は、3種「タリ」「トカ」「シ」の並立表現の使用が文章では選択されず、他の並立表現、例えば、箇条書きや短い文を接続詞を使って論理を展開するという傾向がある。

## 5.2 文型による分析結果

以下、4.1項の分類を基に、並立表現の出現傾向を考察する。出現箇所は行末（ ）内に表示し、文章資料はBと文番号、談話資料はDと発話番号、発話者記号を示す。

### 5.2.1 A. 複数の文法的要素を並列する

#### 5.2.1.1 a1 複数例を挙げ、当該の並立表現が必ず、文法的要素の後ろに付くもの

##### 5.2.1.1.1 「タリ」の出現傾向 12例（タリのは数は28例）

###### ・VタリVタリ+スル、ダ、ッテ（ト）、トカ、 $\phi$ 。(5)

初級教科書でよく例に出される「～タリ～タリスル」の文型は以下のものがあつた。

(3) 定期的に食事会があつたり、旅行に行つたりしてますけどねえ。(D3-642,644SM)

並べる述語が、肯定・否定、反対語など対照的な述語である例には、例(4)がある。一方、例(5)は肯定の意味の方が主で、非限定表現への移行形のようにも考えられる。

(4) 急進的になつたり、逆に、ものすごく保守的になつたりつていうとこなんだなー？  
(D2-664s)

(5) (略) 責任もなく、気楽でいいやと考えたり、考えなかつたり。(B1-56-3)

並立した述語を「スル」で統括した上で、連体修飾節（名詞節）として文を続けることも実例では多い。

(6) 今のこの日本で、安易に家庭を持つたり、子どもを作つたりする方が、よっぽど悪でしょう。  
(B1-80-1)

##### 5.2.1.1.2 「トカ」の出現傾向 14例（組）

「トカ」で述語を並立している場合、「スル」でまとめる「～トカ～トカスル」の文型は見られなかった。「トイウ」「コウイウ・ソウイウ」が後続するか、並立部分を名詞節扱いするものが見られた。引用句の並立表現でなくても、引用の場合と同様の使われ方もされる。「タリスル」と「トカイウ」というように、後続する動詞を「タリ」と「トカ」で無意識に母語話者は使い分けて運用している可能性はあるが、今後、談話資料以外で分析する必要がある。引用句の並立の場合は、「」で括る中の文は、独立文同様の自由な形が可能となる。

その他、「ッテ」などの提題表現と共起するものもある。談話において、並立する節や名詞が長くなってくると、「ソウイッタ」「ソウイウ」等、文脈指示の指示詞や、形式名詞「コト」を用いた例も散見され、文脈展開、統括との関連が見られる。

###### ・N/V トカ N/V トカ+格助詞、 $\phi$ 、イロイロ、(ソウイウ) N {N, コト, ノ}、イウ(6)

(7) その一、え、法律に違反するとか、えー、見た目がNMさんから見て小汚いとか、  
そういうことでしょうかね。  
(D4-470,472k)

(8) そのあと、なかなか伸びない子とか。す、どんどん伸びていく子とか、あ、{笑い}



あるいは、そうじゃない、笑い 習得も早いし、伸びるのも早いとか、いろんな  
感じが、あの、感じがあって、 (D4-132,136,138,139,140,141e1)

・「S」トカ「S」トカ+引用の助詞ト、ッテ、<sup>(7)</sup>

- (9) でも、なんかねえ、どうしても、あの、ほら、あの、書いてあるじゃないですか。「1歳何ヶ月になると、言葉が」とかね？ それから、「小学校何年生になると、これぐらいの、あの、空間認識ができます」とかっていうのがー。 (D4-286,287,289k)

5.2.1.1.3 「シ」の出現傾向

14 例

「シ」の並立表現は、「タリ」「トカ」と異なり、並立した述語を他の述語でまとめるような形はない。並立する要素が、1文中に全て盛り込まれるとは限らないので、広い範囲で並立的結合のまとまりを見る必要がある。終助詞として用いられているように見えるものでも、意味上、離れたところに並立要素を示す発話が出ているものもある。複数例を挙げるものでは「シ」を重ねないa2の文型となるものが51例あり、a1の14例に比べて、差が大きいのも、「タリ」「トカ」と異なる。

・VシVシ、～。

- (10) 女性がその気にならないし、結婚しても大変だし、一人のほうがいいと思う。

(B1-79-5)

5.2.1.2 a2 複数例を挙げ、当該の並立表現が文法的要素の間にのみ付くもの

5.2.1.2.1 「タリ」の出現傾向

10 例

・VタリV+N {N, コト, ノ}、他の接続表現 {テ, タラ, カラ等}

複数要素を並立するとき、後方の「タリ」がない文型には名詞や他の接続表現が後続している。その際の並立する要素同士には対照的な述語は使われていない。また、後方の述語自体が「スル」である場合（「VタリV」で、後方のVが「スル」を用いた動詞）にも、並立する述語を統括するための「タリスル」がない例がある。

- (11) そういうことが、アメリカの、その、平和を考えたり、政策立案をする国際協調派の人に訴えることができたんでしょね。 (D2-219,221MA)

- (12) だから、子どもの頃はね、そのスピードも遅かったりー、なじみ方も違うから、より変わって見えるのかもしれないですよね？ 子どもの頃はね？

(D4-1126,1128K)

5.2.1.2.2 「トカ」の出現傾向

18 例

・N/VトカN/V+格助詞、ナド、ナンカ(テ)、ッテ、トイウN {N, コト, ノ}、ダッテ、ミタイナ

- (13) 大勢で、長い間飲んだりするのが、そんなにー、あの一楽しくないとか、得意でないということですか。 (D3-628,629k)

- (14) じゃ、ほんと、ITさんの場合はー、人に聞かせたいとか、脚光を浴びたいというよりはー、あの、ご自分が歌うのが好きっていうことで。 (D3-744,746,747k)

5.2.1.2.3 「シ」の出現傾向

51 例

「シ」は、他の2種の並立表現に比べ、複数例を挙げる際に、後方の並立要素に「シ」が接続しないa2の例が多いのが特徴である。複文や長い文章では、1文だけでなく、前後を把握しなければならないという点で、非日本語母語話者にとっては、並立する要素の理解が難しくなるというおそれがある。

・Vシ、V+カラ、ノデ、ンデ、その他

- (15) 男に養ってもらって当然だと思ってるし、自分は大した事ないくせに、男に過大な要求ばかりする！ (B1-82-4)

5.2.1.3 a3 単独例の多重構造

形の上ではa1のように見えるが、単独例が重なった、b1、b2の多重構造の文型の例が「タリ」「トカ」で見られた。例(17)の後方の要素は、前方の要素の集合の意味内容を示している。

・(Vタリ) Vタリ トカ～

1 例

- (16) ちょっとこう多めに出したりしなきゃいけなかつたりとかってことあるんじゃないですか？ (D3-1256k)

・(N/V トカ) N/V トカ～

3 例

- (17) アフリカとか 人口が爆発しているところ とかだってあるわけで。 (B1-17-9)

5.2.2 B. 単数の文法的要素を提示する

5.2.2.1 b1 集合の代表例、典型例として単独例を挙げるもの

・Vタリ+スル、スルN、ッテ

16 例

代表例、典型例を1例挙げるもので、「スル」が後続するか、名詞節扱いしているものがあつた。

- (18) 歩くかな、歩くかなって、すごい気になつたりはしてたのでー、 (D4-319G)

・N/V トカ+格助詞、ハ、ッテ、(ソウ) イウN、の。(倒置)

23 例

- (19) 例えば、ちょっと人とコミュニケーション取りにくいとか、そういった点で、やっぱりまわりからは変わりもんで形で見られますよね？ あの、// 学校の中では。 (D4-866,868E)

・Vシ、+～オモウ、カモシレナイ、ダロウ、その他

19 例

- (20) まったくの未婚ですし、これから先の事を考えると結婚したいと思います。 (B1-12-4)

5.2.2.2 b2 非限定表現

実質的には他のメンバーが文脈になく、非限定表現として述べている例として以下のものがある。

・Vタリ+スル、ナンテ、ッテ (イウ)、ノ

10 例

- (21) Hさん、練習したりしますか？ そうやって。 (D3-315k)

・N/V トカ+格助詞、ハ、ッテ、(ソウ) イウ

8 例

- (22) 僕の周りの方でも、「チャンスがない！」とか言ってる方もいますが、「チャンスがないのではなく、逃しているのじゃないですか？」と、僕はいつも言っています。 (B1-64-3)

・Vシ。

7 例

- (23) で、いじめーといえ、いじめだしー。 (D4-936I)

5.2.3 「タリトカ」としての出現傾向

「タリ」「トカ」が組み合わさって使われる中で、「タリトカ」が一つの並立表現のよう



に用いられるものが比較的多かったので、別項として扱うことにした。先に述べたように、「トカ」においては、並立した述語を「スル」で統括するものがなかったのに対し、「タリトカ」では、「スル」が直接後続する例があった。「タリトカ」としての出現数は21例（「タリ」出現総数87例に対し21.1%）あり、談話に特徴的な用法と考えられる。

#### 複数例を挙げる

- ・VタリトカVタリトカ+ソウイウ[N]、（その他a1の「トカ」同様）

(24) もう、円高をやったりとかですね // え、食料の、ちょっと揺さぶりを貿易でやったりとかー、石油の、あの、揺さぶりをやったりとか、そういう[影響]を受けやすい国なんですよ、日本というのは、// 残念ながら。(D2-66,68NH)

- ・VタリトカV+コウイウ[N]、（その他a2の「トカ」同様）

(25) 大量な、いろんな人が死んだり // とか // 犠牲者がでてくる、こういう、あの、[ひどい状況]がね？（略）(D2-391,396NH)

#### 単独例を挙げる

- ・Vタリトカ+スル、（その他b1、b2の「トカ」同様）

(26) その、知らない歌を歌われたりとかね？ しても、楽しめるもんですか。(D3-1195,1197k)

### 5.3 集合の意味内容

集合の意味内容出現の傾向には以下のものがある。話題に取り上げるという点では、質問と答えの形式の中に見いだすことがある。

- ・質問と答えの形式

(27) えー、あの、[アニメの歌って、なに歌ってらっしゃる]んですか？ (D3-882k)  
あの、「タイガーマスク」歌ったり、うん。あと、ヒーローもんだったら、「仮面ライダー」歌ったり、(D3-883,886,887SM)

- ・並立表現の節の前後

(28) [体の衰え]なんですよ。時計の目盛りが見えなくなったりとか、湿布をこう貼るに、手が届かないとか、ひとりでやってどうしようかと、(D1-709,728,731KH)

- ・集合の意味内容を明示する際の、指示詞や引用表現の有無

まとまりを示す機能として並立表現が使われる場合、集合の意味内容が並立要素に後続して示される例があるが、指示詞や引用の表現を用いる例(29)と、読点、ポーズのあと直接示す例(30)がある。既述の例(8)、(24)、(25)の[ ]内も、集合の意味内容を示す。

#### 並立表現+ソウイウ/トイウ [集合の意味内容]

(29) (略) 何をちゃんと、アメリカと話しているんだとか、戦争というかそういうものに対して止めようとしている、そういう[スタンス]をまだしてないんですね？(D2-255,257,260MA)

#### 並立表現+、[集合の意味内容]

(30) その、言葉とか、その、立つとかね、[何かを初めてするの]が遅いと、(D4-308,310k)

### ・「シ」における集合の意味内容

集合の意味内容〔寺村（1984:67-74）では「統括命題」<sup>(8)</sup>と称する〕が、「シ」の並立表現の前後に表現されている場合がある。他の2種の並立表現とは違い、「モ」と同様の取り立ての意味を有している。取り立てという含意の意味が、同じ要素が多いという場合、理由、根拠である場合などが考えられる。

次の例（31）では、「シ」の並立表現を用いた意味は、「大量破壊兵器」を扱っている複数例を、「クラスター爆弾」「劣化ウラン弾」と、兵器を単に並立して提示するだけでなく、戦争を問題視して、アメリカに意見を言うための材料、「交渉の材料」を、並立要素の集合の意味内容として明示することであると考えられる。従って、「シ」は、「アメリカだって、クラスター爆弾だって使ってる」、「劣化ウラン弾の問題だって、まだ、ちっとも片付けてないじゃないか」の2つの主張を並立して述べているといえよう。

（31）だから、交渉の材料としては、それこそ、まあ、その、大量破壊兵器にしたって、そういう意味なら、アメリカだって、クラスター爆弾だって使ってるし、劣化ウラン弾の問題だって、よん、まだ、ちっとも片付けてないじゃないかって、交渉の材料は、いくらでもあるわけですね？  
（D2-552,555,557,559 OR）

## 6. 日本語教育への応用

### 6.1 現在の日本語教材における並立表現の取り扱いの傾向

現在の初級段階の総合教材において、並立表現は、注（1）に示したように、「タリ」「シ」は述語の並立表現として導入されている。「トカ」は主に名詞の並立表現で導入される傾向があり、初級段階を終えるまでに会話の文脈で述語の並立の用例を記した教材があるものの、その提示方法は一様ではない。

中・上級段階の教材では、目的により、並立表現の応用の提示が一様ではない。論文などの作文教材には、列挙、付加、例示を表す接続詞が、積極的に提示される傾向がある反面、「タリ」「トカ」「シ」の助詞を用いた述語の並立表現は、堅い文体にはむしろ使用を避けるように提示しているものがある。会話教材では、「タリ」「トカ」「シ」が取り扱われているが、組合せや用法の違いを前提とした総合的な応用方法を提示するものはあまり見られない。教材によっては、単独例を挙げる用例が示され、対人関係に配慮した曖昧さを表現する練習が積極的に提示されている。

### 6.2 現状に対する提案

並立表現の応用のために、現在の日本語教材の提示方法は十分ではないと思われる。自分の意見を表明する際には、「タリ」「トカ」「シ」の違いや集合の意味内容を意識した提示をすることで、学習者に並立表現の使用を促すことが可能になるのではないかと考えられる。「トカ」を例にとると、学習者が例示をする際の「たとえば、ここがよかったとか、難しかったとか……」（財団法人海外技術者研修協会 1993:107）の用例に倣った、日本語学習者の作文を見受けることがあるが、文末を述語でまとめない文は、意見文としてはそぐわない。しかし、これまでの意見表明の談話における「トカ」の用例を見る限り、「トイウ」を用いたり、後方の「トカ」を用いないことで、ある程度硬い文体の意見文として

適切なものになると考えられる。ここでは、次の2つの提案を述べることにする。

### 6.2.1 「タリ」と他の接続表現等との組合せによる提示例

「タリ」が他の接続表現等の文法的な要素と組合わさる場合、「タリ」が後続しないことがある（a2の文型）。長文が多くなる中・上級の読解や聴解教育では、比較的よく起こる現象として理解させる必要がある。

次の例（32）は、読解演習の教材にある文で、その前に列挙の仕方が総合的に示され、二つ以上の並立表現の把握の注意点がある。問いに対する解答例として、以下のように示されている（山本一枝他 1987:20）。

（32）消費者は、消費者運動を起こし、〔企業に対して（正当な品質表示）や（価格の合理的な修正）を求めたり〕、さらに〔業界を指導監督する責任のある（国）や（地方公共団体）に対して、消費者行政の改善を要求する〕ようになった。

この教材では基本的な列挙の仕方の「～タリ～タリ」の提示はあるが、長文で「～ヨウニナル」のような表現が後続するとき、「～タリ～」の形になる場合があることを、（32）'の提示案のように提示してもよいのではないかと考える。また、「集合の意味内容」を明記することで、読解だけでなく、まとまりのある作文の産出への一助になるのではないかと考えられる。

提示案：〔 〕タリ、（サラニ）〔 〕ヨウニナッタ

「集合の意味内容」消費者運動を起こす

（32）' 消費者は、消費者運動を起こし、〔企業に対して（正当な品質表示）や（価格の合理的な修正）を求め〕たり、さらに〔業界を指導監督する責任のある（国）や（地方公共団体）に対して、消費者行政の改善を要求する〕ようになった。

### 6.2.2 並立表現の使い分けの提示例

並立表現は、初級で学んだあとの日本語学習者の作文指導において、並立表現が多用された場合の使い分けにも、注意を要する。以下は、中国母語話者の留学生の作文例である。

（33）ビデオを見る前にはコンビニでもそんなの高技術を使っているのは全然思っていなかったですがビデオによるとコンビニもコンピューターを使って発注したり、どんな年代の客さんが多く利用するとかどんな物が売れるのかもコンピューターで調査してるし、今、世の中でどんな企業、小型、中型企業でもコンピューターを利用していると思います。だから、現在コンピューターができないとだめだなあと思います。

いろいろ並べてわかりやすく記述しようとしているが、「タリ」「トカ」「シ」が効果的に使われていないため、かえって煩雑な印象を与える文章になってしまっている。できるだけとの語句を変えずに修正したものが、（34）である。

（34）ビデオを見る前には、コンビニでもそんなに高い技術を使っているとは全然思っていなかったです。けれども、ビデオによると、コンビニもコンピューターを使って発注したり、どんな年代の客が多く利用するのかとか、どんな物が売れるのかも調査しているので、今、世の中では、どんな企業、中小企業でもコンピューターを利用していると思います。だから、現代ではコンピューターができればだ

めだなあとします。

ただし、この修正例を学習者に示す際、まず、「調査したりしている」という「タリ」の複数例文型の典型例を示したあとで、後方の「タリ」が他の接続助詞との組み合わせによって、省略されることがあるのを説明する必要がある。また、(34)の例では、「シ」を「ノデ」に変更したが、取り立ての意味を学習者が表現したい場合は、もう少し明確な形で「シ」を用いた例を考える必要がある。

次の例(35)も、別の中国人留学生の作文である。

(35) 一部の自治体ではコンビニエンスストアで住民票が受け取れるし、一部の自治体では有料ゴミ券や指定ゴミ袋の販売も行われています。

これに対し、単純に連用中止形で繋ぐ例(36)、コンビニ利用者の利便性を考えた意味合いで「タリ」を使用した例(37)、「トカ」の例示とその意味内容を明示した例(38)、「シ」の取り立ての意味を明示した例(39)を示すことによって、並立表現の使い分けを提示することが可能になるのではないと思われる。

(36) 一部の自治体では、コンビニで住民票が受け取れ、同様に有料ゴミ券や指定ゴミ袋の販売もコンビニで行われています。

(37) 一部の自治体では、コンビニで住民票が受け取れたり、有料ゴミ券や指定ゴミ袋も買えたりします。

(38) 一部の自治体では、住民票の受け取りとか、有料ゴミ券や指定ゴミ袋の販売を行うという自治体の窓口の役割を、コンビニが代行しています。

(39) 一部の自治体では、コンビニで住民票が受け取れるし、有料ゴミ券や指定ゴミ袋の販売も行われており、今やコンビニが自治体の窓口の役割を果たしています。

## 7. まとめと今後の課題

以上の分析結果をまとめると、「タリ」「トカ」「シ」の3種の並立表現は、3種とも複数要素を並立する際に並立表現を重ねないa2の文型が見受けられたが、「シ」は51例と、a1の14例よりも多かった。

「タリ」は、他の接続助詞の「テ」「タラ」「バ」「カラ」や連体修飾を受ける名詞が後続する組合せがあった。「タリ」は、複数要素を列举する際、組み合わせる後方の接続によって統括されて、述語を並立する用法があると考えられる。例えば「～タリ、～カラ」の形になった例(12)は、述語の並立表現全体が「カラ」による理由の用法の並立表現となっている。その際、「タリトカ」を除き、複数列举の後件部分で「タリスル」の形に統括しなくても、不自然さを感じさせない用例があった。「タリ」を複数重ねない並立の特徴については、今後の課題としたい。

「シ」は、談話では、一発話内に留まらず、文脈依存するなど、取り立てと関連して集合の意味内容を理解することが前提となる並立表現である。「シ」と共起する表現には、理由や根拠を並立する場合は「ノデ」「ンデ」「カラ」がある。また、「オモウ」「カモシレナイ」「ダロウ」などの思考・推量の表現も共起するが、詳しい分析は今後の課題である。相手に理解を求める目的だけでなく、あとの解釈を相手に委ねるという「非限定表現」も使われるが、非限定表現は、3種いずれにも見られる。

「トカ」は、直接引用の節を並立させるだけでなく、間接引用や名詞も並立要素とすることができることで、他の人の言動を引用して話題にする談話に多用される傾向がある。「トカ」は、名詞、述語ともに並立接続することができ、格助詞を後続させたり、無助詞化することが可能である。また、述語の並立の場合、並立する述語を「スル」で統括する形式ではなく、引用を起源とする「トイウ」を用いた形式が活用される。本稿の分析資料では、「トカ」の不確かな伝聞といわれる表現〔「北海道は大雪だったとか」(国際交流基金 2002:164)〕が見られなかったことなどから、文体の違いなどで使用頻度が異なると見られるが、その分析には資料の種類を広範に求める必要がある。3種の並立表現とも、並立表現を重ねないa2の文型で、述語を名詞化した用法が文章においてはなじみやすいのではないかと考えられるが、その詳しい分析と学習者への提示方法、その教育効果の測定については、今後の課題とし、分析対象も並立表現を広く総合的に見ていきたいと思う。

**謝辞** 本稿は、平成15年12月に、早稲田大学大学院日本語教育研究科に提出した修士論文の一部を修正したものです。本稿の執筆に際して、佐久間まゆみ教授にご指導を賜りました。心より感謝申し上げます。

## 注

- (1) 日本語教育の初級段階では以下のような学習項目が設定されている。①「ト」「ヤ」「モ」の並立助詞を用いた名詞の並立 ②「～テ、～」 「～タリ、～タリスル」 「～シ、～」等の文型で表す、接続助詞を用いた述語(動詞、形容詞、形容動詞、名詞+助動詞「ダ」)の並立
- (2) 本稿の「述語の並立」で示す「述語」とは、主語・述語と対になる用語としてでなく、「名詞の並立」の「名詞」に対する、動詞、形容詞、形容動詞、名詞+助動詞「ダ」(用言)のことを指す。寺村(1991:214)は結びつく述語の独立性が高くなると「複文」が形成されることになるとしている。
- (3) 品詞として、「タリ」を述語詞のタリ形(寺村 1991:221)、並立助詞(仁田義雄 1982:413『日本語教育事典』)、「タリ」「シ」を接続助詞(国際交流基金 2002:128)として扱う立場があり、「トカ」を並立助詞、並列助詞という呼称がある。本稿では並立表現「タリ」「トカ」「シ」と統一して呼ぶことにする。
- (4) 佐久間まゆみ(1989:35)は、「接続表現の統括機能」という文章・談話の分析観点を設ける際、「接続表現」を定義し、市川孝(1978:53)の「接続語句」より更に広く、「主として文や節をつなぐ働きをする『接続詞』『接続助詞』『接続連語』等の総称である。」としており、用言の「連用中止形」等も含んでいる。
- (5) Vは動詞、形容詞、形容動詞、名詞+ダを代表して表示し、 $\phi$ は後続するものがないことを示す。
- (6) Nは名詞、連体修飾節を代表して表示し、N/VはNまたはVということを示す。
- (7) 「」は引用節を示し、Sは独立文を示す。
- (8) 寺村(1984)は、「モ」「シ」「シカモ」の並立表現において「影の統括命題」を定義している。本稿では、並立表現における集合の共通の意味的条件の内容を、「シ」における「統括命題」も含めて、「集合の意味内容」と呼ぶことにする。

## 参考文献

安藤淑子(2001)「中級レベルの作文に見られる並立助詞『や』の問題点—『と』の用法との比較を通して—」『日本語教育 108号』pp.42-50、日本語教育学会

- 市川孝（1978）『国語教育のための文章論概説』教育出版
- 佐久間まゆみ（1989）「第11章 文章の統括と要約文の構造特性」『文章構造と要約文の諸相』くろしお出版
- ザトラウスキー、P.（1993）『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察』くろしお出版
- 寺村秀夫（1984）「並列的接続とその影の統括命題—モ、シ、シカモの場合—」『日本語学』3巻8号 明治書院
- （1991）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 中村明（1983）「日本人の表現—その特殊性を考える」『日本語のレトリック』筑摩書房
- 森山卓郎（1995）「並列述語構文考—『たり』『とか』『か』『なり』の意味用法をめぐる—」仁田義雄編『複文の研究（上）』pp.127-149 くろしお出版

## 教材用例資料

- 財団法人海外技術者研修協会（1993）『新日本語の基礎Ⅱ』スリーエーネットワーク
- 国際交流基金（2002）『日本語能力試験出題基準（改訂版）』凡人社
- スリーエーネットワーク（1998）『みんなの日本語初級Ⅰ』スリーエーネットワーク
- 言語文化研究所（1991）『長沼新現代日本語Ⅲ—中級』言語文化研究所
- 山本一枝、田山のり子、坂本恵（1987）『読解演習 はじめての専門書』凡人社

### 【談話資料 1】（一部抜粋）

発話番号	発話内容
66k	だから // 「年の功だねえ！」ってみんなで、なんか、「やっぱり、おとながいいわねー男性は！」と <sup>と</sup> かって言いながら、
67m	<sup>なるほど</sup>
68k	こう、年下も、いいって言ったりして。
69k	ま、別にいいんですけど、そんな話はね？
70m	{笑い}
71k	<sup>ええ。</sup>
72k	えー、神奈川県横浜市の // N.R. さん、59 歳の方です。＜参加聴取者の名前紹介＞
73m	{笑い}
74k	30 ぐらいになると、
75k	みんなで微妙に、こう、なんかね、いろんな話が // あるんです。
76m	{笑い} わかった、わかった。
77m	わかりました // {笑い}。
78k	{笑い} えー、結婚してる人 // も、してない人も、まじってますからね？
79m	いきましよう {笑い}。
80m	うかがいましょう。
81k	えー、N さん、こんばんは。
82N	こんばんは。
83m	よろしくお願いします。
84k	<sup>よろしく</sup> お願いします。
85N	よろしくお願いいたします。
86k	えー、N さんは、
87N	はい。
88k	えーと、なんと、えー、おうちのそばに、5 人の独身男性がいると、
89N	はい、いらっしゃいます。
90k	いう、ことで。
91N	// はい。
92k	その中で 40 代、あるいはそれ以上の方って、何人くらいいらっしゃいますか？
93N	5 人は、いらっしゃいます。
94k	あ、5 人全員が // そうなんですか。
95N	はい、
96N	はい。
97k	あら、まーこれ、深刻な問題でしょうかねえ。
98N	思います。
99k	んー、何が深刻なんでしょう。
100N	あの一、結婚、そのものがね？
101m	<sup>うん。</sup>
102N	あの一全てだと思いませんし、